
避難訓練

莉雨

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

避難訓練

【Nコード】

N9032C

【作者名】

莉雨

【あらすじ】

赤い炎に包まれた学校。それは決してリアルではないけれど。避難訓練中、少女はマッチを手に。

赤く赤い炎が、学校を包み込む

慌てて逃げる生徒に先生

ものぬけになった教室で、静かに自分の席に座る

ゆっくりと瞳を閉じれば

徐々に炎が回ってきて、私を囲みこんでゆき

赤い赤い炎は全てを包み込んでくれるのだろう

火災が発生しました。

生徒の皆さんは先生の指示に従い、速やかに校庭へ避難してください

そんな放送がかかったのは、睡魔が襲い掛かってくるような退屈な授業を受けている最中だった。

「えっ、火災？」

「莫あ迦、今日避難訓練があるって言うてただろ」

後ろから聞こえるクラスメイトの声。

そう、今日は一年に一度の避難訓練の日だった。

もちろん授業は中止となり、廊下へ並んで校庭へと向かう。

こんなことをしても意味がない。

そう思う。

実際に火事になった時、こんな風に避難できるはずなどないというのに。

「静かに行くように」

先生はそういうけど、それを皆が聞くわけもなく。皆、好き勝手に喋っていた。

どうせなら、本当に火事になればいいのに。

赤い赤い炎がこの校舎を包み、全て燃やしてくれればいい。何もかも、跡形もなく。

三年間の思い出も、三年間の傷跡も。

全て燃えて灰だけになればいい。

誰も居ない教室で

ポケットの中からマッチを取り出す。

軽く箱に擦り付ければ

マッチは音を立て、簡単に炎を作り出した。

赤い赤い炎の中で

逃げるわけもなく立っている

炎は激しく燃え盛り

ゆっくりと瞳を閉じれば

炎が全てを包み込み灰にしてくれるのだろう

あれから、十数年の年月が流れた。

今もまだ、同じ場所に、同じ校舎が建っている。

赤い赤い夕焼けが

校舎を赤く包み込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9032c/>

避難訓練

2011年1月5日02時34分発行